

# I 基礎学力

生徒の状況	自己評価A		運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
	前期	後期		
基本的な学習習慣を身に付けている。	おおむね良好	おおむね良好		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師質問項目13の数値が低いのは、先生方の意識の高さからである。後期に期待している</li> <li>・後期は学習状況調査や全国学力テスト等の客観的なデータからの分析をお願いしたい。</li> </ul>
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】生徒質問項目11「東中学び方の約束を意識して授業に取り組んでいる」では、全校の肯定的な意見が90%と昨年度を上回る結果となった。これは、年度当初の学習指導集会や各授業での定期的な指導、学習委員長の放送による全校への呼び掛けの成果であると考えられる。生徒が学び方の約束を意識して授業に取り組んでいる様子が伺える。</p> <p>教師質問項目13「東中スタンダードを意識した授業」では教師全体の肯定的な意見が82%と昨年度よりも大きく下がってしまった。研修など事あるごとに「東中スタンダード」については周知しているため、「東中スタンダード」への意識が高まっている分、より高いレベルを求め、上手くできていないと感じる教師が多くなったことが考えられる。2学期以降は「東中スタンダード」の中でも、「発問・指示の精選」、「板書」の部分を高めていけるように全職員で取り組んでいきたい。また、学年や教科同士で授業を見合う会などを設定し、「東中スタンダード」のよりよい向上につなげていきたい。</p> <p>生徒質問項目12「家庭学習」に関する項目では、肯定的な意見が81%と昨年度よりも若干下がった。保護者質問項目8「お子さんは、学習に適した環境で集中して家庭学習に取り組んでいますか。」と保護者質問項目9「お子さんとメディア利用について話し合い、ルールを決めて使用させていますか。」が共に60%台と低く、「家庭学習」に対してメディアの使用が影響を与えていることが考えられる。メディア使用に対して目標を決めて、使用時間を考えるメディアコントロール週間を実施している時期は、生徒も保護者もメディア使用に対して意識を高めている様子がみられるので、生徒会や生徒指導部と連携して、メディアコントロール週間の実施回数を増やし、テスト期間に充てるなど生徒がより集中して家庭学習に取り組める機会を増やしていけるようにしたい。</p>			
	【年度（→次年度）】			

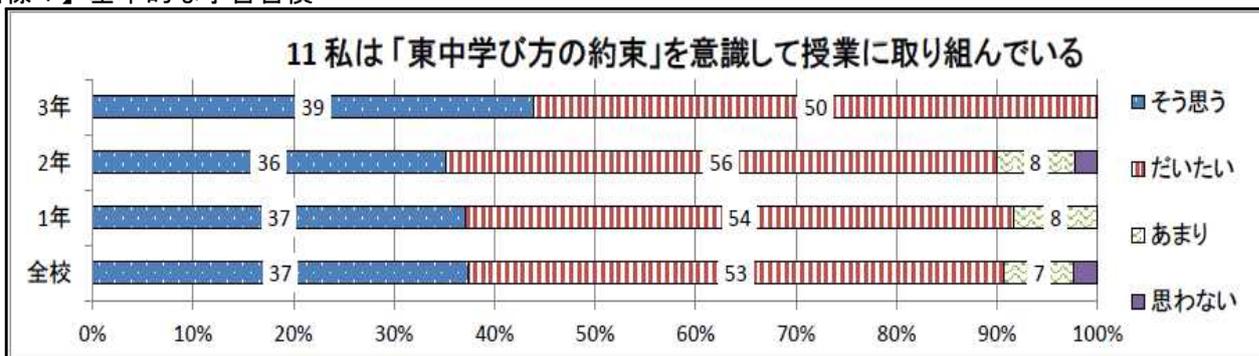
評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な学習習慣	(1) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	3	
2 充実した家庭学習	(2) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	3	

【評価指標 1】 基本的な学習習慣

生徒

R5  
3.19  
↓

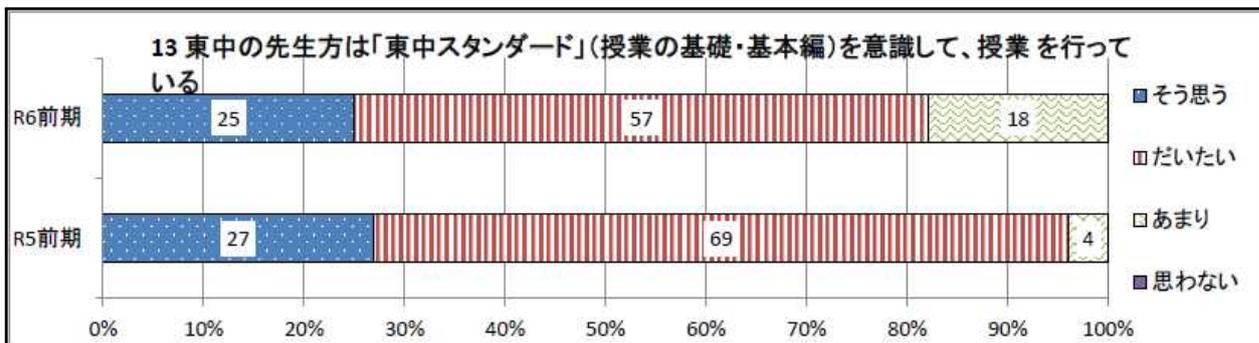
R6  
3.26



教師

R5  
3.23  
↓

R6  
3.07

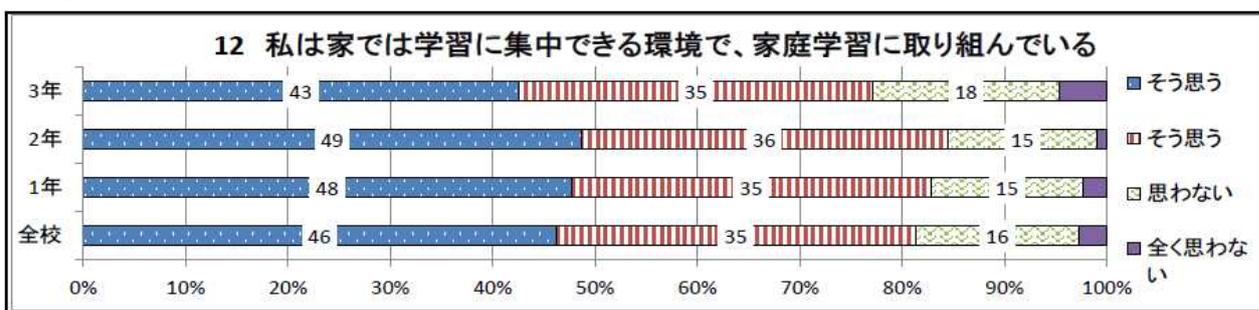


【評価指標 2】 充実した家庭学習

生徒

R5  
3.29  
↓

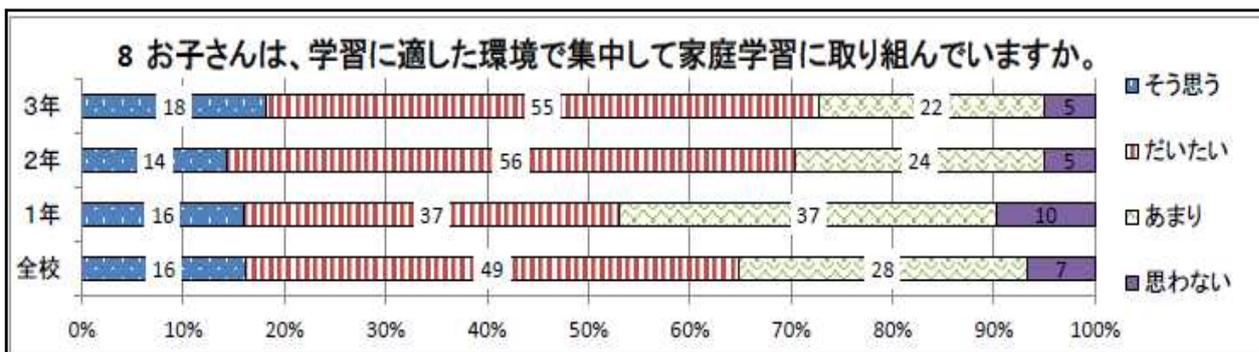
R6  
3.25



保護者

R5  
2.78  
↓

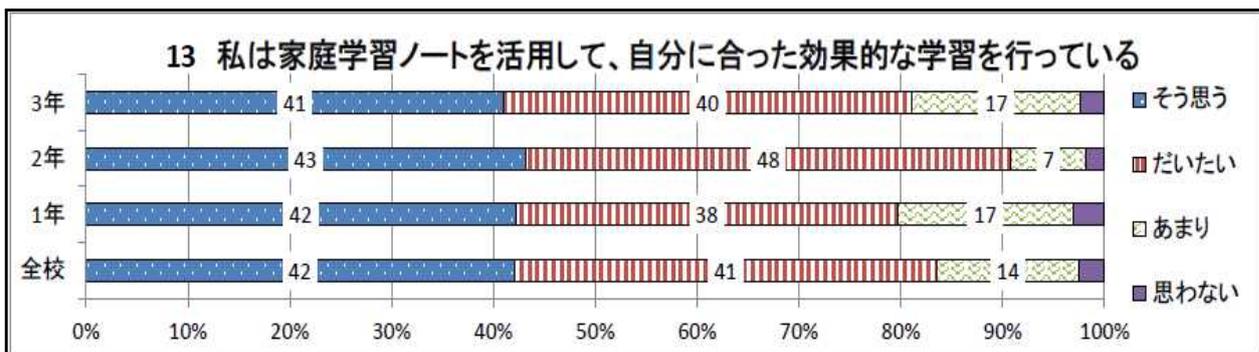
R6  
2.74



生徒

R5  
3.23  
↓

R6  
3.23



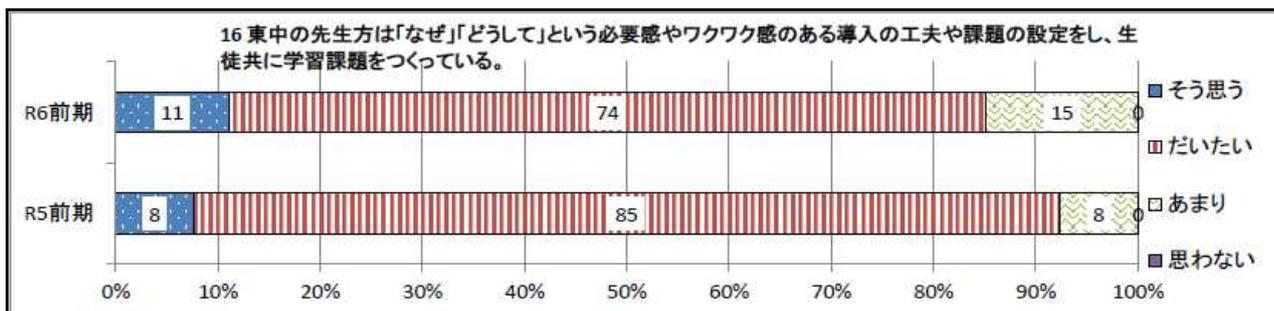
## Ⅱ 教師の研修

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	おおむね良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業にテンポがあり、子どもの食いつきもよかった。昨年度よりよい感じがした。</li> <li>・ 先生方に伸びしろがある。アンケートの数値が低いのは、高いレベルを目指し自分に厳しいからだと思われる。</li> <li>・ 校長先生の何を目指し、何をするか、職員に浸透している。</li> <li>・ 鳳凰ツアーは大変よい取組である。若手の積極的な参観を期待する。</li> </ul>
	後期			
自己評価概要と学校の改善策	<p>【前期】鳳凰タイムの設定について、全体的な数値は向上しているものの、「あまり思わない」の回答が増えている。校内研修会や各種研究会において、「生徒が互いに学び合い、高め合う姿を引き出す」ためにはどのような手立てが必要になるかを協議し、模擬授業を行った。そこでの気づきや学びが、日頃の授業実践につながっていないための回答と思われる。2学期の各種研究会において、各教科における鳳凰タイムの持ち方について再度協議し、同一歩調で鳳凰タイムの実践を進めていきたい。(教師質問項目14・20)</p> <p>導入の工夫については、1学期の研究会で、生徒の振り返りをもとに、生徒と共に学習課題をつくる実践を見ることができた。「魅力ある導入の工夫」は本校の共通実践事項でもあるため、研究推進のための柱であることを意識した実践を進めていきたい。(教師質問項目16)</p> <p>今年度、定期テストの数が4回から3回に変わったことで、どの教科においてもこれまで以上に単元テストを重視し、効果的・計画的に位置付けて実施することができている。また、その結果を受けて補充指導を行うなど、下位の生徒への手立てを講じている。今後は、テスト結果を分析し、自身の授業における課題は何かを把握して、授業改善につなげようとする意識を強固にしていきたい。(教師質問項目18・19)</p>			
	【年度(→次年度)】			

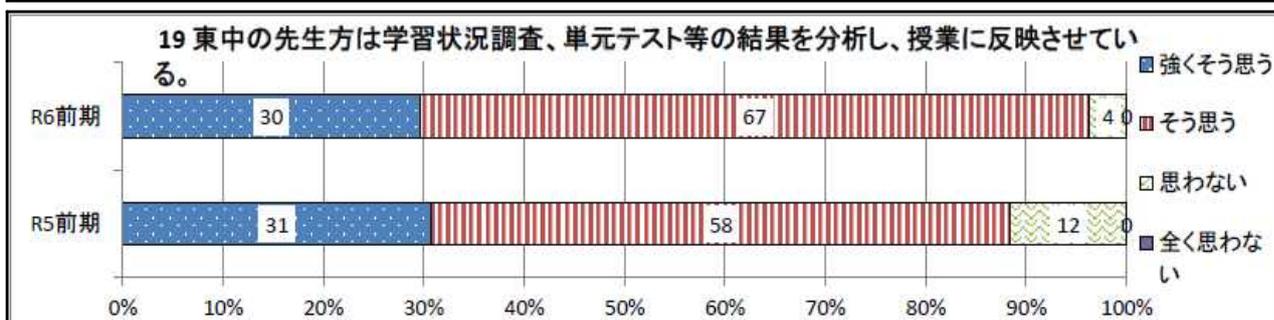
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 授業改善の推進	(3) 授業構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	3	
	(4) 生徒の主体的な学びを創る授業づくり	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実		
4 研修の実施及び活用	(5) 研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	3	
	(6) 各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

【評価指数3】授業改善の推進

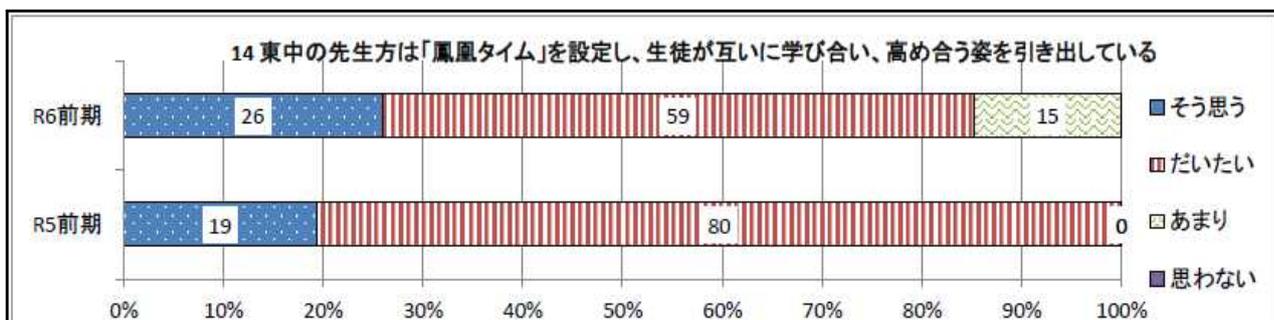
教師  
R5  
3.00  
↓



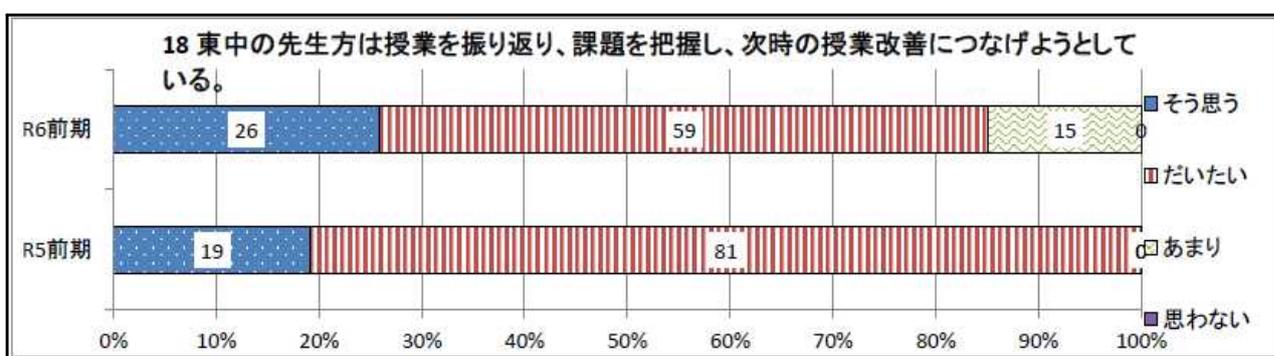
教師  
R5  
3.19  
↓



教師  
R5  
3.08  
↓

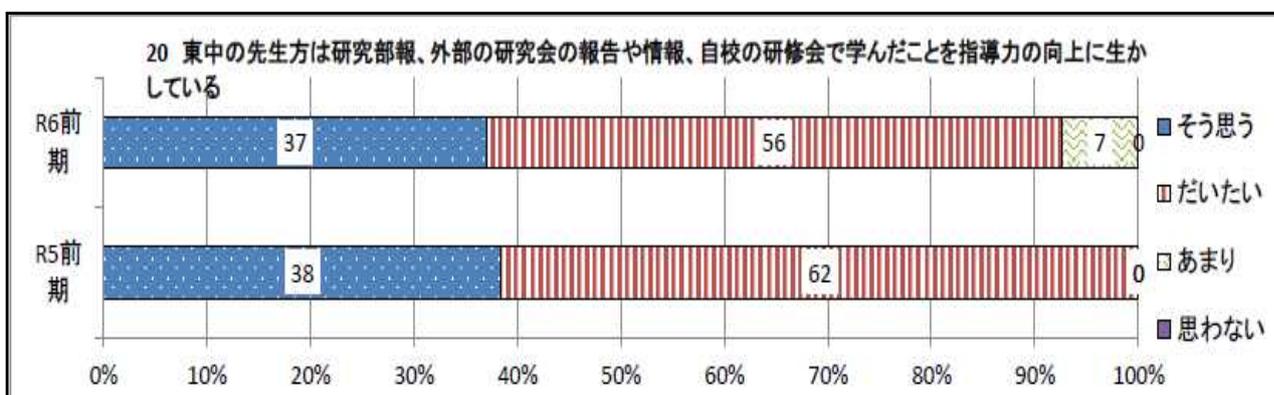


教師  
R5  
3.19  
↓



【評価指数4】研修の実施及び活用

教師  
R5  
3.38  
↓



### Ⅲ 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の変化や、個々の生徒の学びの成長に着目している。大変素晴らしいことだ。</li> <li>・あいさつが浸透したときの東中生の姿が楽しみである。後期に期待している。</li> <li>・生徒質問事項1の数値が高い。学校の方向性がしっかりしているからだと思われる。</li> </ul>
	後期			

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】基本的な生活習慣の確立では、数値が昨年度よりも減少しているが、質問事項1・3では高水準を維持できた。特に質問事項3では、4月始めに清掃の手順等を集会で周知することができたことが要因であると考えられる。しかし、質問事項4では、大きく減少する結果となった。特に1年生がポイントを大きく落とすとともに、各学年に「あまり思わない」を選択している生徒が一定数いることも明らかになった。期を逃さず指導し、時間に遅れることが与える周りへの影響を教えるなど、継続して指導していきたい。また、教師自身が時間を守り、生徒が見通しがもてる指示を出すなど、率先垂範の意識を大切にしたい。質問事項2のあいさつでは、数値の減少的には少ないが、年々低下し、「そう思う」と答える割合も、他の項目と比べて少ない。保護者アンケートの質問項目1にある「あいさつ」に関する項目の約90%が肯定的な回答をしているのに対して、教師アンケートの質問項目1にある「あいさつ」に関する項目は肯定的な意見が約40%にとどまった。ここから、生徒及び保護者と教職員が思う「あいさつのレベル」に差があり、そのレベルが伝わっていないことが予想される。生徒指導部だけでなく、各校務部、生徒会と連携しながら、まずは校内のレベルアップを図りたい。</p> <p>相談活動の質問事項では、両項目で大きく減少する結果となった。質問事項4の「月の振り返り」に関する項目では、特に大きく減少が見られた。今年度転任者も多く、まだその意義が十分に伝わっていかたり、実用性を感じる機会が少なかつたりしたことが予想される。今一度、全職員で運用の意義を確認し、効果的な運用となるようにしたい。</p>
	【後期（→次年度）】

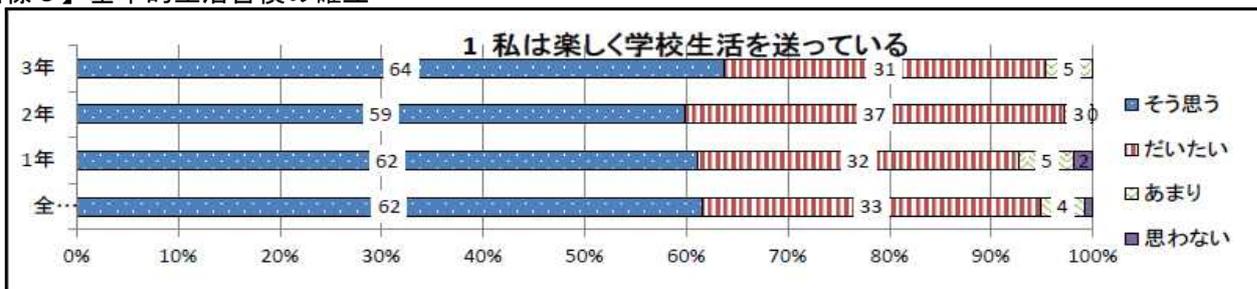
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 基本的な生活習慣の確立	(7) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通じたあいさつ運動 清掃指導	3	
	(8) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化(メディアコントロール)		
6 相談活動の充実	(9) 生徒指導の四機能を生かした指導	教育相談 人間関係づくりの推進	3	
	(10) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート 保健室・家庭との連携 S Cや外部機関との連携		

【評価指標5】 基本的な生活習慣の確立

生徒

R5  
3.58  
↓

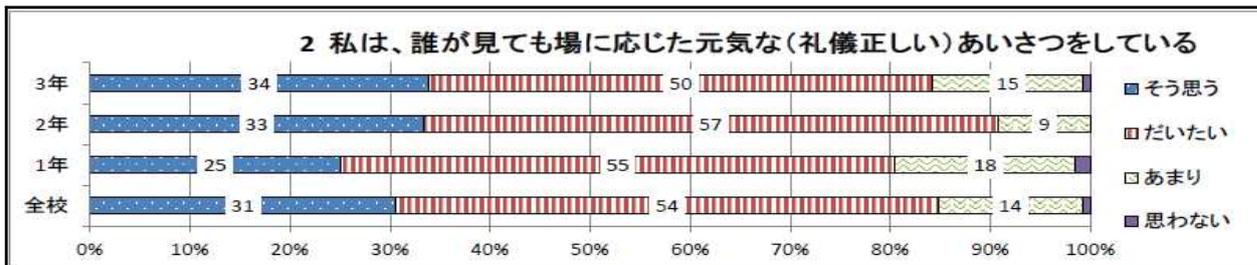
R5  
3.55



生徒

R5  
3.16  
↓

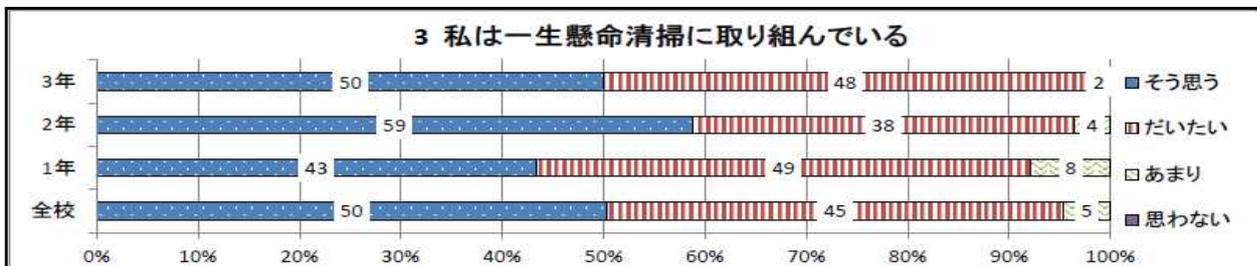
R6  
3.15



生徒

R5  
3.50  
↓

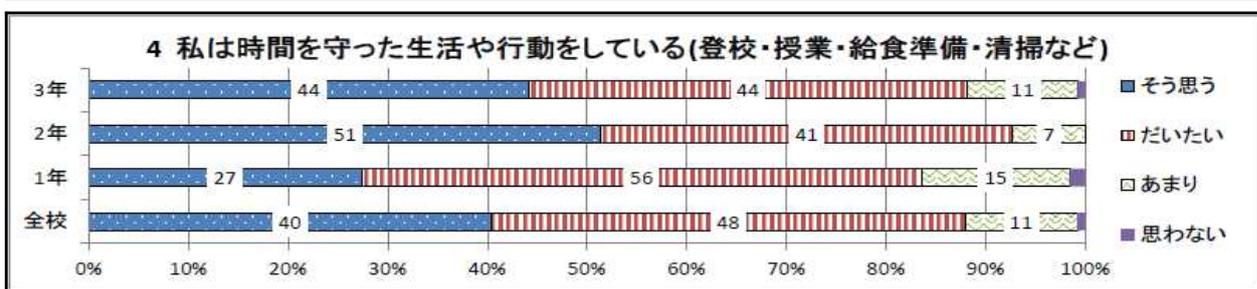
R6  
3.46



生徒

R5  
3.37  
↓

R6  
3.27

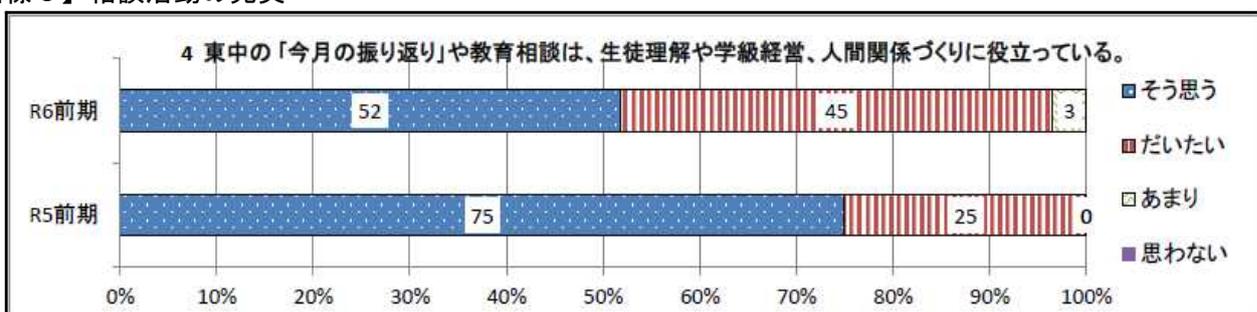


【評価指標6】 相談活動の充実

教師

R5  
3.75  
↓

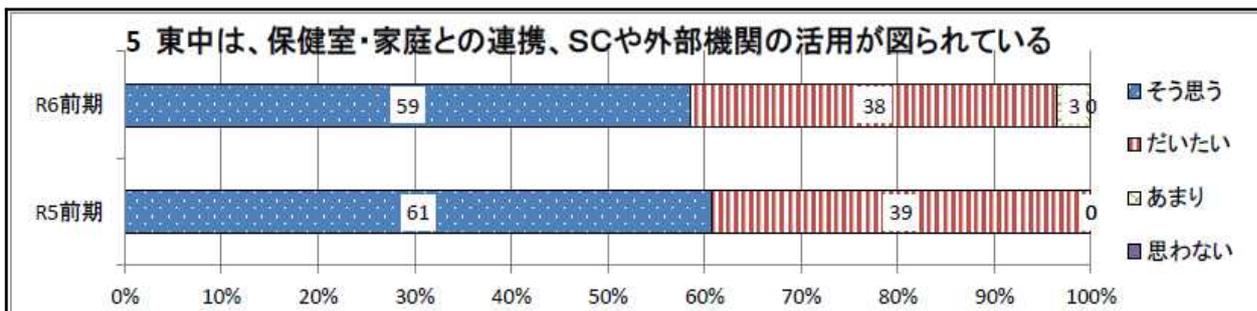
R6  
3.48



教師

R5  
3.61  
↓

R6  
3.55



#### Ⅳ 思いやりとたくましい心

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・生徒自信が考え、実践、実現できている。生徒の考えを尊重し、自分たちの考えでやってもいいんだよという雰囲気は校内にある。
	後期			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】豊かな体験活動については、生徒質問項目6、7、10において数値が昨年度よりもやや減少した。特に生徒質問項目6については、子どもハローワークに参加する生徒が昨年度より増えたにもかかわらず、アンケートの数値が大きく下がっている。後期に向けては、「生徒にどんな力を身に付けさせたいのか」を考えながら、生徒のボランティアの体験を価値付けて、学びや成長を実感できるように支援したい。

集団生活の向上についても、生徒質問項目5、8、9において、昨年度よりも数値が下がっている状況である。特に質問項目9については、数値が低い状況である。東中三大自慢に関わる行事が2学期に集中しているため、1学期の評価が低めになっていることが考えられる。また、日々の教育活動や行事が東中三大自慢への意識付けにつながっていない状況があると考えられる。2学期の各行事においては、ねらいを明確にして、生徒の声を生かしながら、東中三大自慢と関連させながら学校行事の計画を行い、生徒が成長を実感したり、職員が成長を価値付けたりできるような振り返りの場面の設定が必要だと考えられる。次年度に向けては、年間を通して、生徒の意識向上が図れるような適切な行事設定を行う必要があると考える。

現在の中学生は、非常に多忙な毎日を送っている。その中で充実感、達成感を味わわせるためには、行事を増やすのではなく、行事一つ一つの教育効果をいかに高められるような、事前事後の指導も踏まえた行事を計画できるか考えていかなければならないと感じる。

【年度（→次年度）】

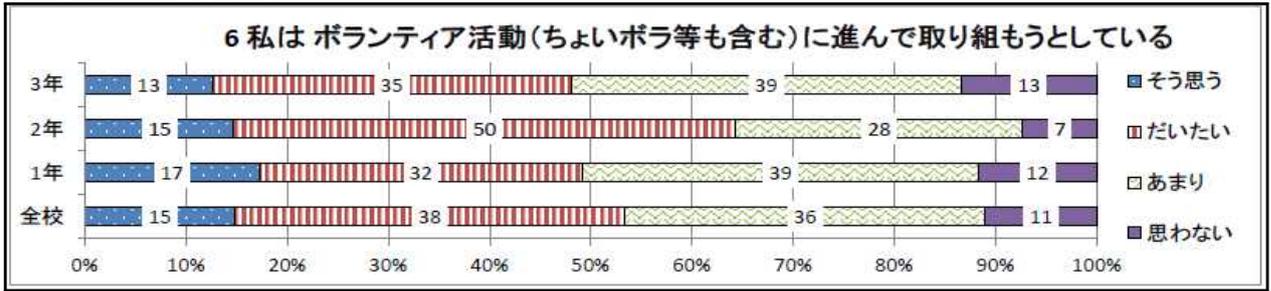
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 豊かな体験活動	(11) ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導。地域、郷土愛の醸成	東中ボランティア、きりたんぼ祭りボランティア、子どもハローワークへの参加 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生	3	
8 集団生活の向上	(12) よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通じた道徳教育学級プログラム・係活動での一人一役集会などの話し合い	3	
	(13) 共感的協働力を高める集団活動。愛校心の醸成	東中太鼓の伝承 心一つに響き合う歌声活動 学校行事や生徒会行事の充実		

【評価指標 7】 豊かな体験活動

生徒

R5  
2.76  
↓

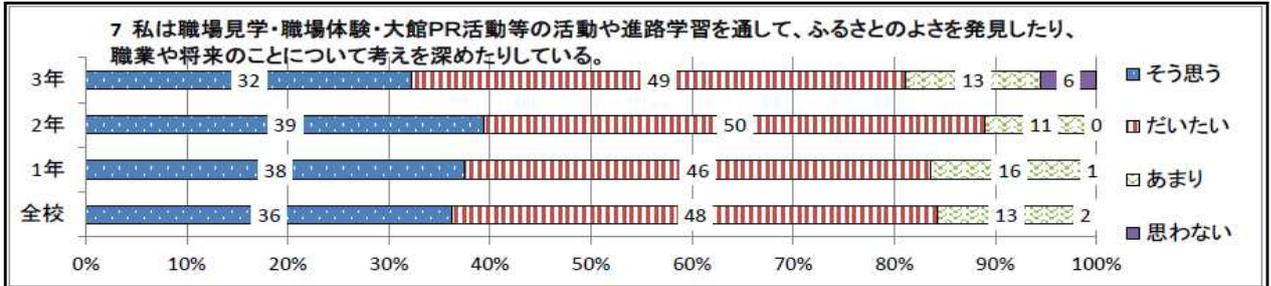
R6  
2.57



生徒

R5  
3.29  
↓

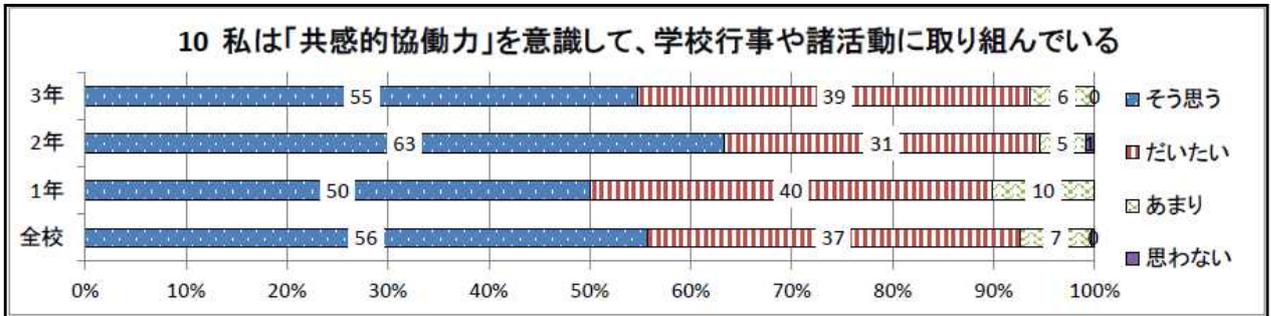
R6  
3.18



生徒

R4  
3.51  
↓

R5  
3.48

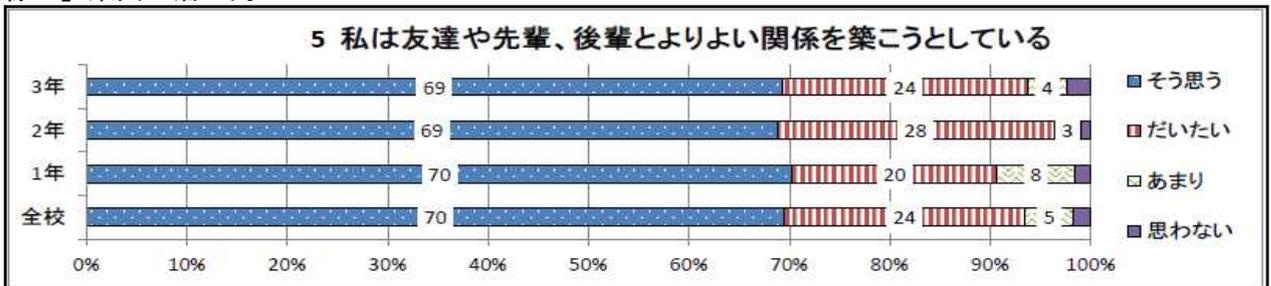


【評価指標 8】 集団生活の向上

生徒

R5  
3.66  
↓

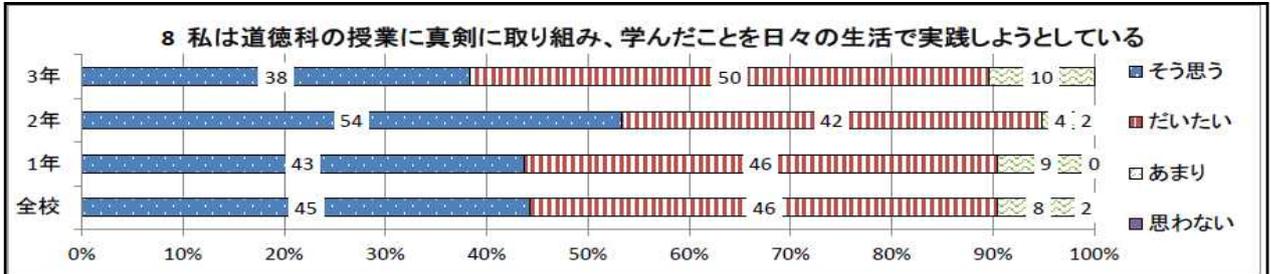
R6  
3.61



生徒

R5  
3.38  
↓

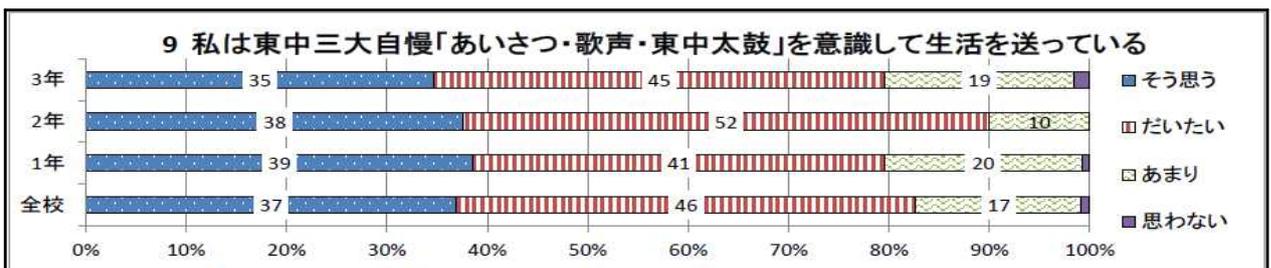
R6  
3.34



生徒

R5  
3.19  
↓

R6  
3.19



## V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
<p>学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。</p>	前期	おおむね良好	おおむね良好	<p>・PTAの活動は滞っているが、保護者として学校に関わっていること、そして学校が開き受け入れてくれていることに感謝している。もっとPTAと学校が連携していければと思う。(PTA会長より)</p>
	後期			
自己評価	<p>【前期】保護者質問項目10の「お家の方は、学校だよりや学年通信、ほけんだより等に目を通していますか」については、肯定的な回答が全校で91%であり、学校や学年の様子が概ね伝わっている状況にある。保護者質問項目11の「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で94%であり、昨年度よりも数値が上がっている。活動制限が緩和され、コロナ禍以前の活動に戻りつつあると感じている。5月の運動会のPTA種目や6月に行われたPTA親子講演会では、PTAの方々が中心となり動いて下さった。2学期にはPTA保体部主催の親子ボランティアなどがあり、ますますPTAの主体的な活動が学校の活動が期待される。</p> <p>教師質問項目24、保護者質問項目12の「学校は、地域人材の活用、職場体験・訪問等、地域と連携した活動に取り組んでいると思いますか」については、肯定的な回答が教師が92%、保護者が全校で95%であり極めて良好である。今年度のPTA親子講演会は、FMラジオおおだてから佐藤和幸さんを講師としてお招きし、「大館の魅力再発見！」という演題で講話していただいた。昨年に引き続き地域の人材を活用できた。また、昨年度末から始まった「東中ダンスプロジェクト」では、本校卒業生の三浦栄一さんと菅原恵子さんにご協力いただき、曲とダンスが完成した。10月に行われる学校祭やきりたんぼ祭りで披露することになっている。今後も地域の人材を有効に活用し、生徒のふるさとキャリア教育を充実させていきたい。また、2学期には東中ボランティアが行われる。当日だけの活動でなく、事前には地域貢献やボランティアの意義を理解させ、東中生が地域を活性化する活動に取り組ませたい。</p>			
	【年度（→次年度）】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 保護者との連携	(14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの発行 ホームページ、連絡メールの活用	3	
	(15) 行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10 地域の教育力の有効活用	(16) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	3	

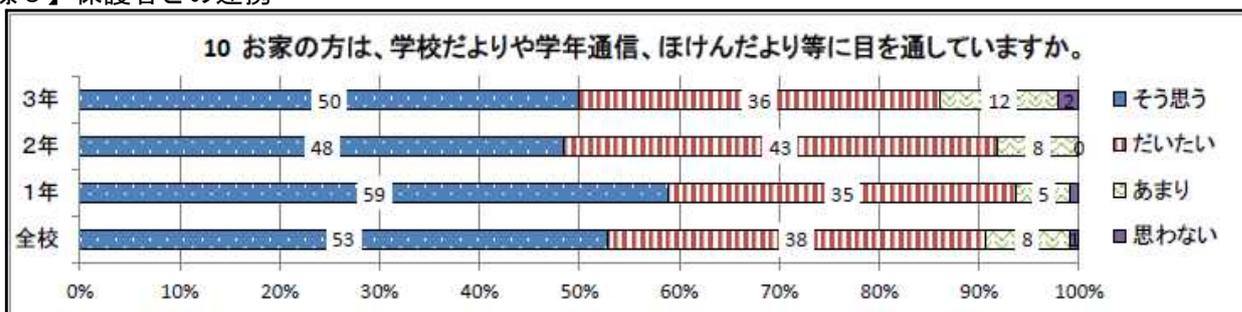
【評価指標9】保護者との連携

保護者  
R5

3.42  
↓

R6

3.42



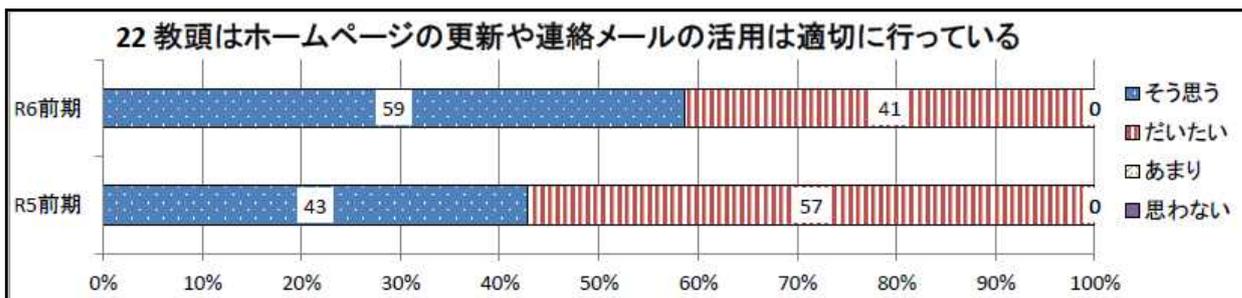
教師

R5

3.43  
↓

R6

3.59



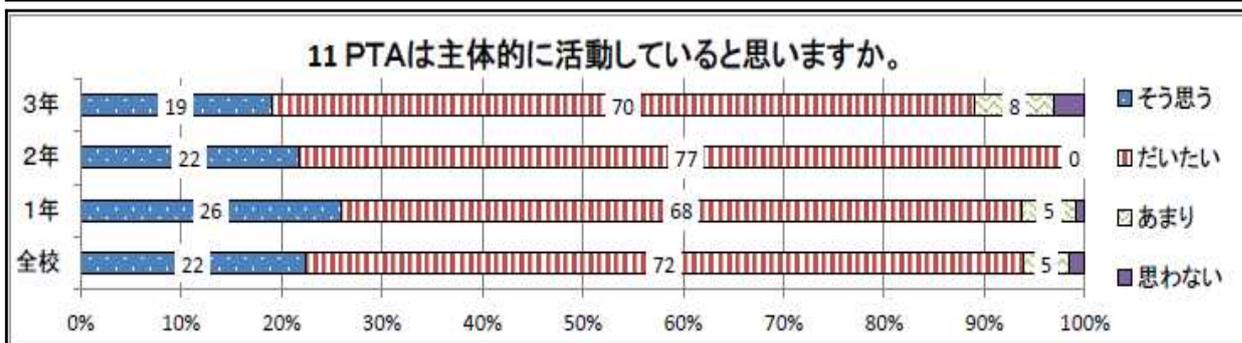
保護者

R5

3.20  
↓

R6

3.15



【評価指標10】地域の教育力の有効活用

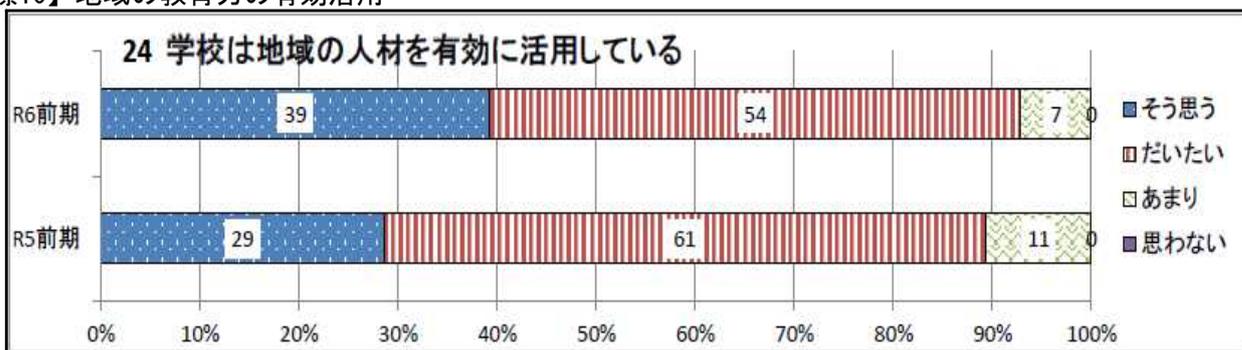
教師

R5

3.18  
↓

R6

3.32



保護者

R5

3.40  
↓

R6

3.32

